

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2025年1月～3月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から14社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

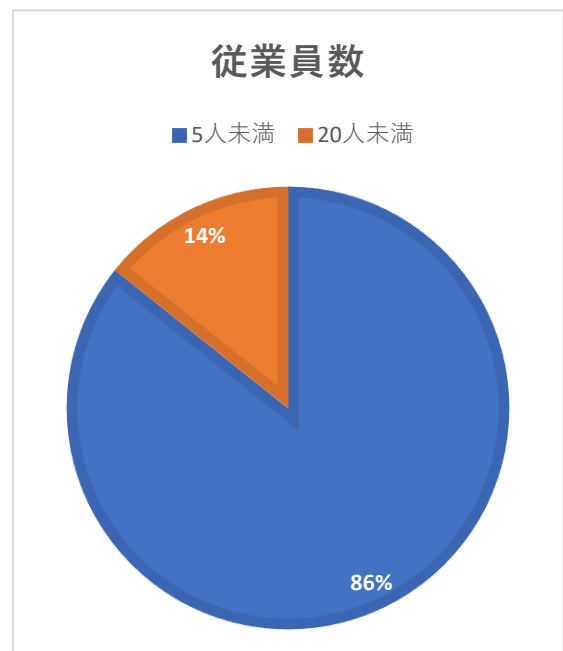
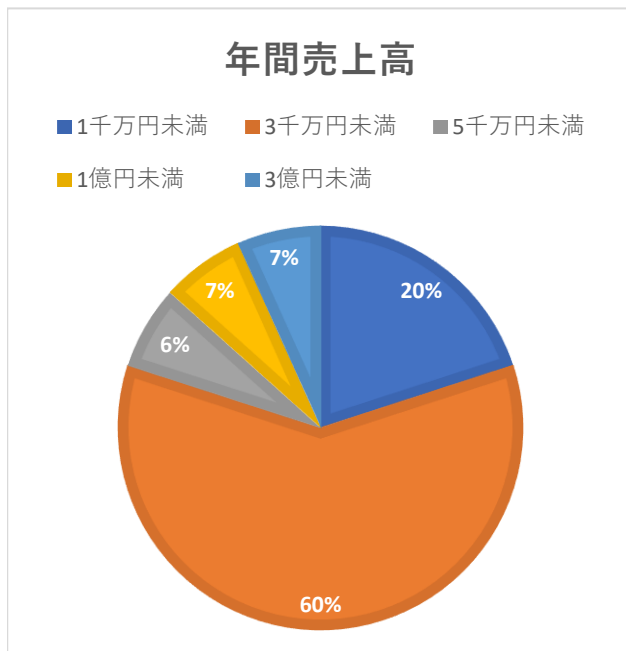
3. 調査事業者

- ① 製造業 3社
- ② 建設業 2社
- ③ 小売業（卸売業を含む） 3社
- ④ サービス業 6社

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 近年の物価高の影響と対策について聴取し、業種別に比較するなど分析。
- ③ 国の補助金制度及び商工会の支援についての認知及び活用状況を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表1：2025年1月～3月のDI

	合計	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-13.3%	-33.3%	50.0%	-66.7%	0.0%
販売単価	-6.7%	-33.3%	0.0%	-66.7%	33.3%
経常利益	-33.3%	-66.7%	-50.0%	-66.7%	0.0%
資金繰り	-13.3%	0.0%	0.0%	-33.3%	-16.7%
人材確保	-20.0%	-33.3%	-50.0%	0.0%	-16.7%
景況感	-40.0%	-66.7%	-100.0%	-33.3%	-16.7%

- 前回（2024年10月～12月）との比較では、全体的には若干悪化しているが、ほぼ変化が見られなかった。
- 製造業において、売上高と経常利益は変わらず低迷しており、加えて販売単価も再び悪化したため、結果、景況感の悪化につながっている。
- 建設業において、売上高が改善しているが、これが経常利益の改善にまで至らず、また人材確保については相変わらず苦勞しており、景況感の悪化につながっている。
- 小売業においては、さらに売上高、販売価格、経常利益ともに悪化しており、厳しい状況下に置かれている様子が窺える。資金繰りもさらに悪化しているようだ。
- サービス業においては、販売単価を上げることに成功しているようだが、それが売上高及び経常利益の改善にまでつながっていない。また、若干ながら、資金繰りも悪化している。

DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 物価高騰の影響調査

図1 2025年1月～3月の仕入価格の高騰状況

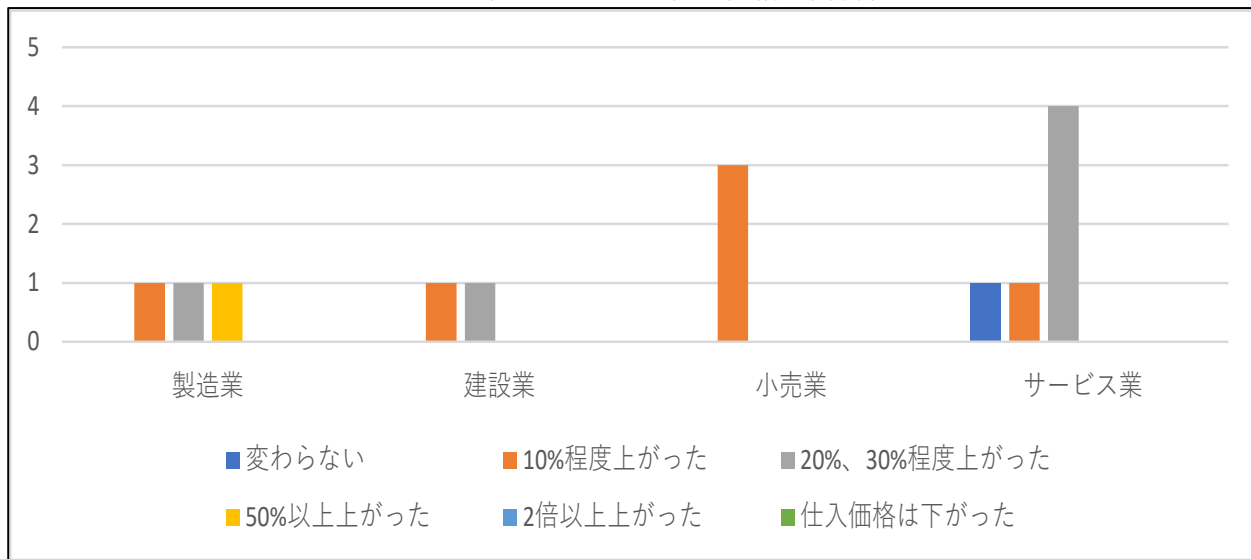


図2 2025年1月～3月の販売価格値上げ状況

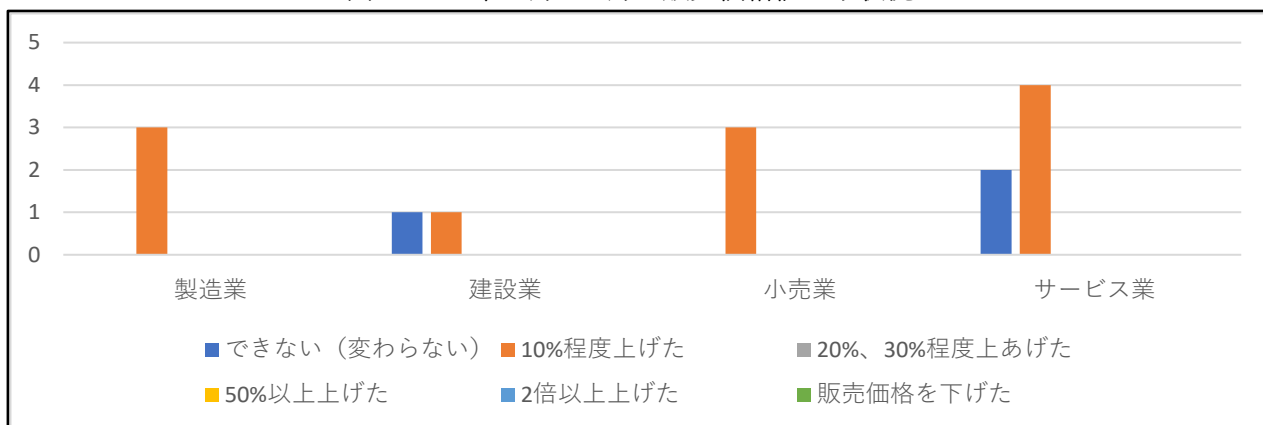
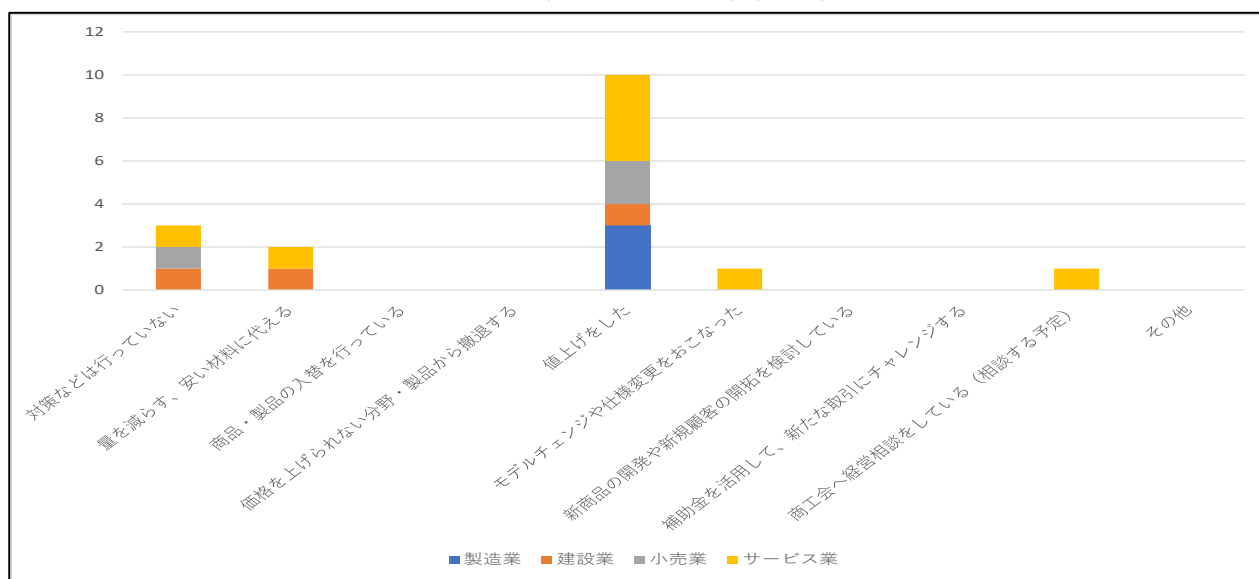


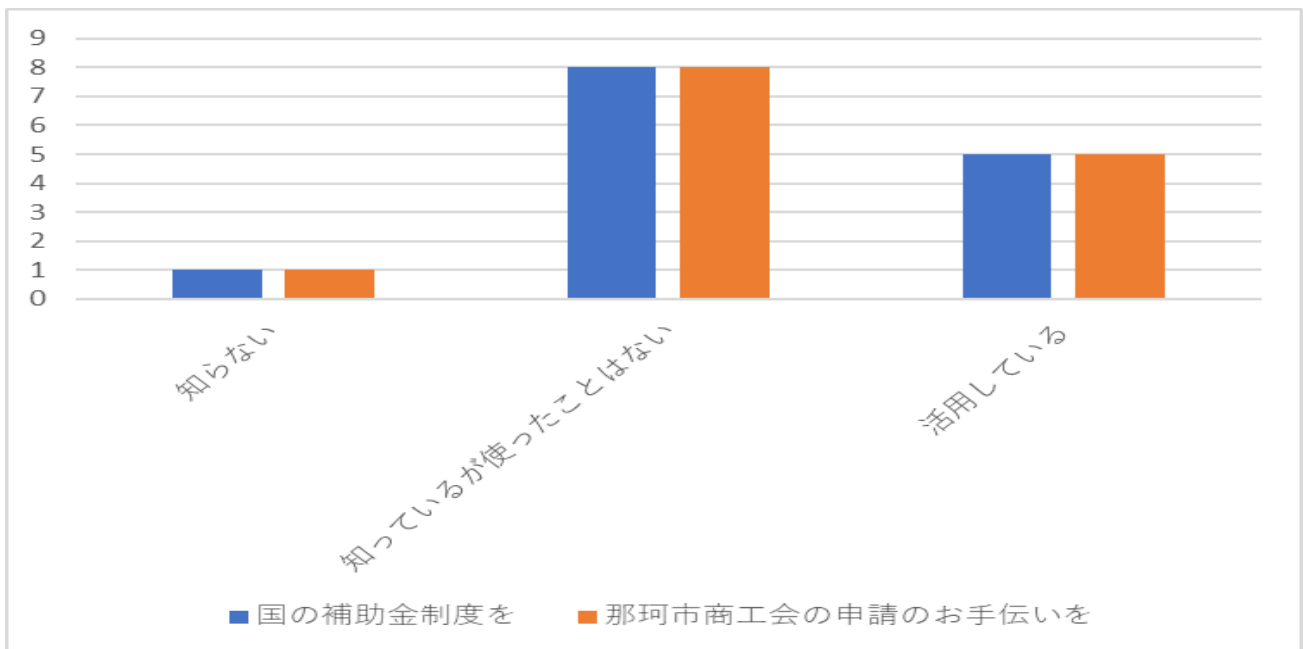
図3 2025年1月～3月の物価対策



- 前回同様、すべての業種において、仕入価格の高騰に頭を悩ませている様子が窺える。
- ただし、最も仕入価格高騰が顕著なサービス業において、仕入価格の高騰が落ち着き始めている様子が窺える。一方、製造業においては、若干悪化している。
- また、サービス業は、販売価格の値上げも積極的に敢行している様子が窺える。ただし、DI値において確認したように、経常利益の改善にはつながっていない。
- 物価対策については、値上げをした企業が増え、手付かずの企業が減っている。社会全体に値上げを容認する雰囲気があり、これが値上げを後押しさせている背景もありそうだ。

III. 国の補助金制度の活用

図4 国の補助金制度及び商工会支援についての活用状況



- 国の補助金制度や商工会によるその申請支援については、ほぼ周知されている様子が窺える。
- ただし、活用している企業はその約3分の1である。残り3分の2は存在を知っているが、活用には至っていないようだ。
- また、補助金を活用している企業数と商工会の支援を受けている企業数がほぼ同数であり、商工会の支援をうまく活用して補助金を獲得、活用している様子が窺える。

以上